

技の匠と「結」の精神からまちを豊かに

▼コンセプト

有松地区における南海トラフ巨大地震に付随する様々な社会課題を解決するべく平時、災害時、復興時、復興後の使い方を想定し、持続可能なまちづくりの拠点となるような不動産活用を提案する。

絵：自画

▼地区・不動産の概要

名古屋市緑区の南にある有松には**歴史的な町並み**とともに、**伝統産業の有松絞り**が今日まで**継承**されてきた。慶長13年に尾張藩によって開かれ、東海道を往来する旅人の土産物として絞り染め（有松絞り）が考案され、以降、有松絞りとともに町が発展した。年に一度の「有松絞りまつり」は、毎年約8万人の来場者が全国から訪れる。

伝統産業の有松絞り

有松絞りは**400年の歴史**を持った**伝統産業**。絞りの製造工程は基本的に分業制で行われる。それぞれの**工程には専門の職人**がおり、布を糸で絞る「くくり」、「染め」、「糸抜き」などの**作業を分担**して行う。各工程は、専門の職人が担当し、一枚の布が職人から職人へと受け渡され、最終的に製品として完成。

伝健地区における産業種別の役割

種別で見ると、集落が最も多く、地区が属する産業は、17地区12.0%に留まっている。**産業を背景とする伝健地区は希少で保全が重要**と考える。



文化庁「重要伝統的建造物群保存地区一覧」を基に作成

有松の町並み



▲有松絞りまつり



▲絞り工程

(有松・鳴海絞会館HPより)

物件概要

旧東海道沿い
土地面積：約270㎡
建物面積：約90㎡
(間口：約8m)
主屋：木造平屋建、離れ有



有松まちづくりの会HPより

▼空き不動産の使い方

対象地区の地震想定被害等

地区周辺の想定被害状況：震度：6弱/強
家屋被害：100~500棟未満/建物全壊率5%~20%未満
道路閉鎖率：40%~70%未満
小中学校・鉄道・店舗等の立地状況と役割
周辺避難所：絞り会館、有松小・中学校、
イオンタウン有松「行政連携」 駅：有松駅至近
半径500mの65歳以上の比率23.3%（緑区22.8%）

【事前復興計画策定済み・検討中】

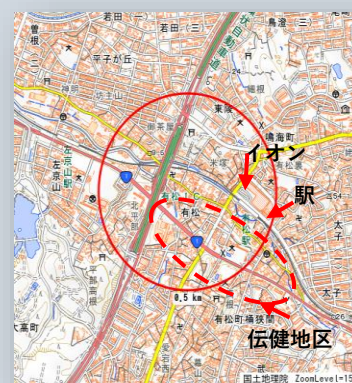
- ・全国67%に留まる（国交省R6.7時点）
- ・名古屋市災害復興マニュアル策定
→復興体制、都市/住宅/くらし/産業の復興

視点①：伝統産業の維持・保全（持続可能な）

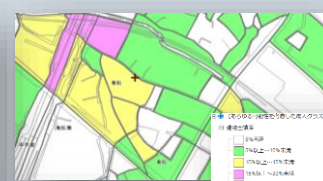
視点②：甚大な被害想定への対応

視点③：地元住民含む観光客・帰宅困難者対策

視点④：事前・復興まちづくり計画のPDCA



▲▲e-Statを基に作成（半径500m）



▲名古屋市地震災害危険度評価図情報を基に作成



▲NAVITIMEHPより周辺避難所（絞り会館・学校等）



1. 平時

プラットフォーム（組成）

保存会×外部/地元企業×教育機関×市×ステークホルダー（地元住民等）

- ・会員企画
→学び・体験・支援・発信・交流等
- ・絞り体験 ⇄ 絞り会館サテライト
- ・耐震診断/改修相談室、防災訓練、倉庫等
- ・事前復興計画の策定拠点

4. 復興後（住宅再建、恒久住宅）

- ・会員企画の実施
- ・復興まちづくりのフォローアップ
都市：復興整備計画の策定・着手等
住宅：建設業者紹介、資金相談等
くらし：給付等資金、就業相談等
産業：絞り産業の保存・再生拠点
文化：伝健地区の保全・再生拠点



2. 災害時（避難）

- ・防災倉庫の整備（非常食、医薬品、乳幼児（オムツ等）、女性用品）、毛布、ガスコンロ、簡易ベット等
- ・仮設トイレ（マンホール設置型）
- ・外国人を含む観光客対応（外国人対応の非常食やガイドブック等）
- ・帰宅困難者（情報収集、防災無線等）
- ・災害物資の受入れ体制の構築 等

3. 復興時（仮住まい）

- ・会員企画の実施
- ・ボランティア/仮設住宅（申込等）
- ・災害復旧従事者のサテライト拠点
- ・仮設浴場の設置（マンホール設置型）
- ・復興まちづくり計画のPDCA
→当該地区復興基本計画の策定拠点
→伝健地区の被害調査、再建方針等

▼有松地区から発信しまち・地域全体を豊かに

【一般的に想定される効果】

1. 防災意識の向上
2. コミュニティの活性化
3. 伝統産業の維持保全
4. 空き家対策

更なる効果①：技の匠×結から都市デザイン

・有松絞りは都市の形成のみならず、地域住民の精神的な柱となっている。

更なる効果②：居心地×結から建築デザイン

・各フェイズに即した「居心地」が重要である。

更なる効果③：多様な主体による災害まちづくり

・プラットフォームを通じて、平時から復興後を見据えたビジョンを掲げ、具体的な取組が必要である。



保存会スタッフとの意見交換

福島県大内宿からの学び

ボランティアスタッフとの対話から「結」は、単なる相互扶助の制度ではなく、**地域社会の絆を深め、より良い生活を築くための精神的な基盤**だと強く感じた。



大内宿現地踏査

